

ヘイトスピーチに関する聞き取り調査 (全体版)

平成28年3月
法務省人権擁護局

| | | |
|-----|--------------------|----|
| 第1 | 調査の概要 | 2 |
| 第2 | 調査結果(1) 在日韓国・朝鮮人 | 4 |
| 1 | 新宿区 | 4 |
| 2 | 川崎市川崎区 | 11 |
| (1) | 川崎区在住の40代女性ほか1名 | 11 |
| (2) | 川崎区在住の70代女性ほか1名 | 13 |
| (3) | 川崎区在住の40代女性 | 15 |
| 3 | 大阪市生野区 | 16 |
| (1) | 生野区在住の30代男性 | 16 |
| (2) | 生野区在住の60代女性 | 18 |
| (3) | 生野区在住の40代女性 | 19 |
| (4) | 生野区在住の40代男性 | 20 |
| (5) | 生野区在住の40代男性 | 22 |
| (6) | 生野区在住の40代男性 | 23 |
| (7) | 天王寺区在住の30代男性 | 25 |
| (8) | 生野区在住の20代男性 | 26 |
| (9) | 天王寺区在住の20代女性 | 27 |
| 第3 | 調査結果(2) 地域の日本人住民 | 30 |
| 1 | 新宿区 | 30 |
| (1) | 大久保通りで店舗を経営する60代男性 | 30 |
| (2) | 大久保通りで店舗を経営する60代男性 | 31 |
| 2 | 大阪市生野区 | 32 |

第1 調査の概要

1 目的

いわゆるヘイトスピーチを伴うデモ等が、その主な対象とされている在日韓国・朝鮮人やデモ等が行われた地域の住民に与える主観的影響等を明らかにし、今後の人権擁護施策の基礎資料とするため。

2 実施主体

法務省人権擁護局

3 実施時期

平成28年1月から3月まで

4 聴取対象者

(1) 在日韓国・朝鮮人（帰化による日本国籍取得者を含む。） 計20名

性別 男性11名 女性9名

年齢 20代2名, 30代2名, 40代6名
50代5名, 60代3名, 70代2名

実施地域 東京都新宿区6名
川崎市川崎区5名
大阪市生野区9名

なお、新宿区の6名は、いずれも1980年代以降に韓国から来日した、いわゆるニューカマーである。

(2) 地域の日本人住民 計6名

性別 男性5名 女性1名

年齢 60代5名 70代1名

実施地域 東京都新宿区 2名
大阪市生野区 4名

5 実施方法

(1) 地方公共団体から協力を得るなどして、地域の関係団体の紹介を受け、当該団体に聴取対象者の推薦を依頼した。

(2) 法務省人権擁護局の職員が、聴取対象者の職場、関係団体の事務所等において、聴取対象者と面接し聴取を行った。

聴取は、聴取対象者の希望や時間の都合に応じて、個別又は数名のグループで行った。また、聴取対象者の希望等によっては、推薦した関係団体がその場に立ち会うこともあった。

(3) 聴取に先立ち、法務省人権擁護局の所掌事務、調査の目的、聴取した内容を他の目的で利用することはないこと、聴取した内容は個人が特定できない範囲で公表を予定していることを説明し、聴取対象者の了解を得た。

(4) 聴取事項については、

- ヘイトスピーチを見聞きした経験の有無（ある場合はその具体的内容）
- ヘイトスピーチを見聞きしたことによって生じた感情
- その後の社会生活や自身の考え方に対する影響
- 法務省の取組（「ヘイトスピーチ、許さない。」のポスター等）に対する意見

○ その他，国（法務省）への要望等

を中心に聴取したが，聴取対象者の回答や状況に応じて，質問の表現や内容，順序等を適宜変更し，また，関連する事項についても質問した。

- (5) 聴取した内容は，前記の聴取事項を中心に，個人が特定できない範囲で適宜要約し，後記第2，第3に調査結果として記載している。なお，数名のグループで聴取した場合でも，聴取対象者が各質問に個別に回答するなど，聴取内容を聴取対象者毎に区別することが容易な場合には，聴取対象者毎に聴取内容を記載しているが，聴取対象者数名が共通の経験について互いに補足しながら回答するなど，聴取内容を聴取対象者毎に区別することが困難な場合には，まとめて記載するなどしている。

第2 調査結果（1）在日韓国・朝鮮人

1 新宿区

Aさん：大田区在住の50代男性（日本滞在歴25年）

Bさん：新宿区在住の50代男性（日本滞在歴16年）

Cさん：渋谷区在住の60代女性（日本滞在歴33年）

Dさん：新宿区在住の50代男性（日本滞在歴30年）

Eさん：千代田区在住の60代男性（日本滞在歴33年）

Fさん：新宿区在住の50代男性（日本滞在歴18年）

（みなさんは新大久保の近辺で商売をしているのか？）

Cさん：私だけ違います。新宿ではヘイトスピーチの問題があるから、よく来て、その状況を見たり、歩いたり、聞いたりしています。

（ヘイトスピーチと聞いてイメージするものは？）

Cさん：つい最近、ヘイトスピーチを見たんですね。大久保に来て見たんですけど、それが、本当に韓国人のジェノサイドみたいな、そういう感じがするんですよ。それが日本で、全体的に、社会的に問題であることが残念ではないですね。先進国で、日本は世界でもトップのいい国というイメージを持っているのに、そういう問題を起こすというのは理解できないですね。昔は、殺せとか、死ねとか、そういう言葉はあまり使ってなかったと思うんですよ。戦争の時以外は。それなのに、その言葉を使うっていうのは、これは本当に理解ができません。

Aさん：例えば、子供がそういう言葉を言ったら、常識のある大人だったら、そういう言葉を使っちゃだめと言ったりするじゃないですか。世界で名だたる日本という国で、それが野放し状態で、繰り返し行われるという不可解さというか。あれは聞いていて気持ちよくない言葉ですしね。気持ちの問題というよりも、憎悪を抱かざるを得ないでしょ。言われちゃったら。

Eさん：ちょうど2011年3月、4月頃から、K-POPなんかもあって、観光客があふれるくらい新大久保に来たわけですね。交通整理をしなければ人が歩けないくらい、本当に賑やかだった。それが2012年8月に李明博大統領が竹島に行ったとか、そういう話があった後に、デモが少しずつあったんですね。最初は、死ねとか殺せとかそういう言葉はなかったんですが、それがどんどん、どんどん激しくなった。激しくなったのは9月からですね。1週間に1回ぐらいやるようになって、平和な国で急にそういうことになったから非常に困ったんですよ。

Fさん：ヘイトスピーチというのは、韓国人とか朝鮮人への差別表現じゃないかと。

Dさん：例えば朝鮮人帰れとか、これは、多分、先進国ではあり得ないことだと思いますよ。韓国でも、そういうことはないです。韓国でデモがあるときは大使館前。日本人が住んでいる街とかではやってないですね。何でこんなことするか疑問もありますけど。国際化の時代に、自分の国に来ている人を弱い者いじめするなんて。

Aさん：差別につながるというか、差別そのもの、人権侵害ですよ。日本人もこういう

ことを見ていやがっているし、日本に対していいイメージをもっている韓国人でも、日本という国自体を見直す人が結構いたと思いますね。

F さん：ヘイトスピーチという言葉が流れてくると、不安なんです。そういう単語を聞くと、また集まってくるのかと。去年から少しなくなってきたんだけど、ここに住んでいていいかという不安を感じていました。

(新大久保でデモを直接見た経験は?)

C さん：私は直接3回ぐらいみました。やっていると聞いて、わざと行きましたけど。

B さん：2012年くらいですね、8月以降、週1回か2回ぐらいはやってたんですけど、本当に、怖いですよ。目をあわせると、殺されるような感じがして。会社でも、なんで日本で商売やっているんだとか、みんな帰れとか、そういう電話をもらったことが何回もあります。

F さん：一番最初が2011年1月じゃないかと思います。韓国に行っていた時以外は、ほぼ見たと思います。一番最初が今でも忘れられないんですけど、結構激しいんですね。警察がほとんど保護しなかったんですよ。公園に集まって、職安通りから、いわゆるイケメン通りに入って、そっちで一人を殴って、交番に話しても対応してくれなくて、本当に怖い雰囲気だったんですよ。店の中にまで入ったりはしなかったんですけど、店で食事する人を指さしながら、お前はなんで韓国の飲食店で食べているのかと。そういう悪口をしたことで、警察が保護するようになって、そういうことはなくなったんですけど。商店会の人たちから電話があって、ドアを閉めてとか、デモ隊を見ないでとか、そういうことは言われました。

E さん：在日韓国人はここで生まれて、日本の教育を受けた人たちだし、そのときにもう差別があったわけだよ。在日韓国人の年上の方たちはそういう経験をしたからね。30年前に日本に来た人たちは、そういう経験もなかったし、自分の国でもそういうことはなかったから、なんで差別をされるのかと非常に困っている。ひどくなったときには、韓国学校まで来るようになって、学生たちもだいぶ怖がってね、お父さん、うちがなんでそんな悪いことをやったか、なんでそんなことをするのか、と言うわけです。親の面子が立たないわけです。非常に心苦しい。

C さん：在日韓国人の方、ここで生まれて、ここで育っている70代、80代に聞くと、昔は人種差別はありましたけど、殺せとか死ねとか、そういう言葉で表すのは初めてだっていうんですよ。帰れというのはあったらしいんだけど。

A さん：4、5回しか見てないんですけど、にらみ返したらひるむ様子もありましたけど、言われていると、感情が、どんどん、どんどん、たぎるわけじゃないですか。見てるとやっぱりだめですね。付き合っているとだめですね。きれちゃいますね。

D さん：私も。だから、できるだけ聞こうとしない。ちょっと避けて、話だけ、他の人から聞いたりするんですけど。

A さん：その後、世界中から色んな指摘があったりして、一時ほとぼりが冷めたりしたじゃないですか。裁判にも負けたりして。やれやれと思っていたら、靖国神社で爆発があって、また、ひょっこり出てくるから、誰か操っている人がいるのかと、不信感がありますよね。

- E さん：本当に2020年のオリンピックをやる国がそういうことをしてて、いいかどうかということも出てくる。逆に、目を違うところに向けてるために、政府が後ろでやってるんじゃないかという気持ちも出るようになったんですね。
- D さん：弱い者をいじめるといふ、そういう目で見ると、中国人相手のものはないんです。ほとんど韓国人じゃないですか。中国は怖い国、大きい国だからできなくて、韓国は色んな面で、日本より小さいし、経済力も少ないと、だから、そんなにやっても、大きな問題にならないと。
- C さん：ヘイトスピーチっていうのは、もう韓国人のために出てきた言葉なんですよ。在日韓国人に特権をあげるのとは反対だということなんだから。特権っていったい何なのか、理解不足じゃないかと思っているんですよ。これは、日本の社会的な問題なんです。国が法規制作って、先進国だっていうのを見せるべきです。それを我々は強く望みますよ。本当に。そうしないと、日本の世界からのイメージが、だんだん、だんだん悪くなる。
- F さん：ヘイトスピーチのデモがあると、翌日とかには、必ず韓国のテレビで流れるんですね。こっちに来ている民間のテレビの記者たちが写真をとって、最近ではインターネットもあるから、速いですよね。そうすると夜とか、翌日には、韓国の友人とか家族から、大丈夫かと電話があるんですよ。そういうテレビを見て、留学生も日本に行かないらしいんですよ。日本語学校で韓国の学生が減ったという話を聞いたんですよ。ここの近辺でも、留学生が減って、仕事をさせる人も少なくなっていて、ちょっと困っている。今、一番増えているのが中国、ベトナム、ネパール。この地域でも店を閉めた韓国人の人が結構いて、一番盛んだったころは500店舗ぐらいあったんですけど、今は150から200ぐらいの店舗は閉めてしまった。ヘイトスピーチデモの影響がかなり大きかったんですよ。
- D さん：マスコミの責任もあって、日本全体がそうであるかのように報道するから、ちょっと偏見もあると思いますけど。
- C さん：留学行こうと思っても怖いから他のところに行くとかで、本当に留学生減りましたね。日本としても損ですよ。

(ヘイトスピーチをインターネット上で見る機会は?)

- D さん：それはありますね。かなりある。今の韓国の経済の悪さとか、韓国は長続きしないという内容のものとか。
- A さん：2ちゃんねるとか、よく言われているものがありますし。韓国には、そんな悪口専門のチャンネルはないんですけど。
- C さん：日本人は感情をあまり外に出さない国民性なのに、こういうことをするっていうのは、背後で、国家とか政府が、お金を出してそうさせているんじゃないかと思うぐらいです。
- D さん：日本全体では、ごく一部だと思います。私も30年以上日本に住んでいて、東南アジアとか、アメリカにも行っているけど、日本の文化が一番優れていると思っています。文化の水準も、社会の色んなシステムとかも、人とのつきあいを見ても。それはみんなが認めていて、私も宣伝しています。

- Cさん：私も宣伝していますから。それなのにこういうことがあると損ですよ。
- Dさん：他には、韓国の食材を納入したら、スーパーに対して、何で韓国の物を売っているのかと苦情があったということがありまして、それで取引を切られたと、そういうことも聞いたことがありますね。
- Aさん：私なんかも、韓国のものを卸したりするんですけど、お客さんが来ないから持ってこないと言われる期間がだいぶ長かったですね。新規の商売ができない期間が1年以上ありましたね。韓国製という時点で却下されてしまう。
- Eさん：ターミナルのような所に韓国の店が入ったら、なんで韓国の店を入れるのかということになって、韓国の店を入れないようになっていくところもあります。テレビの番組も一緒です。何で韓国の番組をやるんだということ。
- Bさん：コンサートのキャンセルとかも多かったし。催事関係でも無理ですと断られることもあったし。何か苦情の電話がありましたかって聞いたんですよ。向こうは、はっきりとは言わないですけど、違いますとも言わなくて、ただ、すみませんと言うだけだから、何かと苦情の手紙とかが来るんじゃないかなと思いましたね。
- Eさん：一番被害を負うのは飲食店と食料品店ですよ。他の店は、韓国人がやっているか、日本人がやっているか分からないから。この2つが一番困っている。今売り上げが新大久保で50%落ちているわけ。それが3年以上なわけ。2011年には、すごく人が多かったし、商売が成り立っていた。1年間商売して、おもしろいなと思えてきたときにヘイトスピーチが来て、人が来なくなって、それから3年間ずっと続くから。苦労して、夜逃げする人もいるし。政府は、どういう形で、そういうところを補償してくれるのか。
- Cさん：法規制をやれば、自然に無くなりますから。国がそれをやるべきですよ。日本のために。我々のためにね。

(ヘイトスピーチを見聞きした際の感情)

- Aさん：例えばですね、1対1で話をしているときに殺すぞと言われても、そこまで感情が変わることはないんですよ。殺気立っている人たちが、あれだけの人数でまとまってやるから、自分の感情がコントロールできなくなる。あの声が怖いとか、そういうことじゃないですよ。自分の感情がコントロールできなくなるようなところが怖いんですよ。ぶったたいてやりたいという気持ちが先走っちゃうんですよ。それを押さえなきゃいけないから、それを押さえるのが大変で。ひどいこと言われて怖いというのじゃなくて、お互いに潰し合いになることを想像して怖くなるんですよ。
- Fさん：そういう場所で、そういう光景を見た人達の99%がそうなると思うんですよ。私もそうですよ。瞬間的なものが、きちゃいますね。感情がコントロールできなくなって。できるだけ見ないようにするんですけど、あまりに表現の仕方が悪いし。それで、実際に若い人たちは衝突して、けんかすることもあるんですけど、それが理解できるんですよ。みんな一緒だと思いますよ。
- Cさん：そういう感情が起きるのはみんな一緒だと思う。
- Aさん：たまに走っている街宣車を見て、よく警察が何もしないなど不思議に思ってい

るんですけど、そういう積み重ねがこういうことになってしまっていると思うんですよ。大人だから冷静になっていますけど、社会全体、韓国人社会全体では、マグマみたいに蓄積されているものがなくはないと思うんです。これが、この先ずっと続くとしたら、我々が予想だにできない不測の事態もあり得るということも一つ考えないといけないと思うんですね。

C さん：国が歯止めをしてくれれば一番いいと思います。本当に。法規制がないと、また起きます。日本社会の問題ですよこれは。

(ヘイトスピーチの影響)

C さん：我々が持っている日本の全体的なイメージがダウンするというのはいないんですよ。だけど、一部分の人達のために、日本のイメージが悪くなるのが嫌ですね。そのためには、国が法規制作って、イメージがダウンしないように力を入れてください。

A さん：大勢に影響が無いといえば無い。ただ、国としても明らかな汚点ですよ。褒められるところは何一つないわけですから。こういったものに、国としてとりかかれたいというのが、ちょっと不思議ではありますよね。

D さん：ヘイトスピーチによる影響は、特に韓国食材関係の商売にかなりあったと思います。韓国のマスコミもそうですけど、日本のマスコミもそういうデモがあったら放送するじゃないですか。一般の国民のほとんどが、それを大きく見るじゃないですか。一部の100名、200名がやっているのに、それがかなり悪く影響するんですよ。それで結局、韓国のものは買わない、食べないということになる。韓国も不買運動やったことあるんです。でも国民のほとんどは買います。日本は、不買運動はしないんですけど、自らは買わない。それはもっと怖いことじゃないですか。実際データがありますから。いい時と比べて悪いときは売上半分に減ってしまって。直接じゃなくても、間接的にはヘイトスピーチというのが影響あったと思いますね。

—ここでAさんが退席—

(「ヘイトスピーチ、許さない。」のポスターについて)

C さん：大久保のお店に貼ってあるのが何回かありましたよ。

E さん：そういうポスター見たときに、逆に、何でそんなものを貼っているのかと、そういうことしないで政府がもっと強くやればいけないかと、そういう気持ちを持ちました。

F さん：個人的には、ヘイトスピーチ許さないという、そういう表現は強制的なイメージがちょっとあるので、先進国として恥ずかしいことじゃないかとか、感情に訴えるようなものがないんじゃないかと。例えば、ヘイトスピーチを許さないというポスターをあちこちに貼ると、この地域がそういうデモをする場所のように見えるから。それはよくない。

D さん：ほとんどの人がこれを守っていますから。一部の人が守っていないのに、これ

を全部に配るといのはちょっとどうかと。200名とかそういう少ない人に向けたものを、1億人みんなが見るところに貼ってもね。

- E さん：日本ではね、今も、百貨店の地下にキムチの売り場があって、おばあさんがきて、うちの嫁がこの店のが一番好きなんだけど、周りの目が怖いから私が代わりに買いに来たというんですよ。それが日本人の本当のところなんですね。だから、「ヘイトスピーチ、許さない。」という看板があっても、日本人はまっすぐ見ないよ。それで売上が30%以上落ちている。だから、こういう小さいことじゃなくて、本当に国がやるべきことを先にやるべきじゃないかと思う。韓国人の店に客が来なくなって、テレビも放映しなくなって、韓国料理の番組がなくなっているんですよ。ベトナムとかタイとかネパールとかシンガポールとかばかりです。ヘイトスピーチは韓国人をいじめているのと同じだからね。ここにいる人たちは被害者だから。なんとか政府が、こういう小さいことじゃなくて、そういうことを考えて何とかしてください。
- C さん：ヘイトスピーチという言葉自体聞きたくないじゃない。「ヘイトスピーチ、許さない。」は強過ぎる。こういうのを貼る必要はないと思う。こういうことは無駄ですよ。やっても。
- B さん：ちょっと表現が強過ぎだと思います。柔らかい言葉で、ヘイトスピーチという言葉を入れるのであれば、「ヘイトスピーチがない日本に」とか。あるいは、「日本は、あなたたちを応援します」と書いて、小さく「ヘイトスピーチ、許さない。」とか。表にはちょっと貼りづらいですね。貼ったら逆に、対抗しようという気持ちになって、ヘイトスピーチが起きたらどうしようかと心配になる。だから、もしポスターでこの地域の人を安心させたいのなら、もうちょっと柔らかい表現で、「日本はあなたを応援するから安心してください」とか、そういう表現がいい。
- C さん：私はヘイトスピーチという言葉は出したくないね。ヘイトスピーチというのは年上の人たちは知らないことが多いんですよ。日本人からすれば、ヘイトスピーチってなんだろうと思いますから。ポスターを見ても、ヘイトスピーチって何だろうとクエスチョンマークつける方が、韓国人以外では多いんですよ。だから、わざとヘイトスピーチに関して認識させるのもいいんだけど、ポスターよりも、国から、これは法規制するというのを、マスコミを通じて1か月間言えば、もうなくなりますよ。本当に。
- E さん：30年住んでいても、日本人で我々を無視する人はいるんだよ。無視をすることは理解できますよ。うちより先進国だから。それが無視じゃなくて、蔑視することになったら、これは違うんじゃないかと思っている。蔑視するのはヘイトスピーチと同じになっている。ほとんどの国民は、ヘイトスピーチを見て、どんどん悪い方に向かっているから、それをどのような形で元に戻すかということは、国がやってくれないとできないことだと思いますよ。ヘイトスピーチの被害が一番多いのは大久保通りですよ。それと、鶴橋、川崎、上野とか。韓国料理屋とか韓国のものを扱っている店が被害を受けているんですよ。冷静に真面目にやっている人たちなんですね。博打もしないし、何にも悪いことしないし、一番真面目にしようという人たちに被害が起きているわけだから、そういう人に政府が支援

金を出して応援して、そういう人たちを助けてあげなきゃいけない。

- C さん：地域では、みんな仲良しですよ。仲良しで、色々と韓国式でおいしいものを作ったら、みんなで一緒に食べたり、話したりもする、その人達が、ヘイトスピーチにびっくりしているから。日本の中でこういうのをするのを恥ずかしいと、日本の方が言っていますから。だから、ヘイトスピーチをするような人は一部分だと思うから。国がやらないと損ですよ。先進国で、いい国だという評判がある中で、なんで損することするんですか、国がとめないといけませんよ。
- F さん：個人的には、ヘイトスピーチのポスターを貼るのは、あんまりいいイメージじゃないと思うんですよ。やっぱり、そういう組織が世の中に存在できないように法律の形で決めてほしい。我々の生活を侵害して、損を与えて、脅かして、そういう人たちが組織として日本に存在するのはだめなので。
- D さん：韓国では大使館前でデモはやるけど、日本人と1対1とかではやらないですよ。個人的にやったり、街でやったりということはないですよ。大使館でデモが終わって社会に戻ってからは、そういうことはしないんですよ。歴史的な衝突とかあって、感情的に長引いていることはあると思いますけど、国民感情というか、それをすぐ解決して、いい風になった方がいいと思いますね。
- C さん：日本と韓国は良かれ悪しかれ、切り離すことができない運命だもの。だから良くならなければならないの。法律で決めればいいですよ。そのかわり、私たちも日本好きでいますから。ここに安心して住んで、我々も子供たちもここに住み着いて、死んでいくんだから。それはもう、国がやるべきなんですよ。

(その他要望等について)

- C さん：法規制作ってください。それでマスコミを通して宣伝すればあつと言う間に無くなると思います。
- B さん：ヘイトスピーチをあまり強調し過ぎるとよくないと思います。法務省がどれくらい力があるか分からないですけど、もうちょっといいイメージで何かやってほしいですね。新聞とか雑誌とかでも、「法務省は韓国人を応援する」とか。そういう、いいイメージを、放送とか、マスコミとかで発信してほしいですね。
- D さん：公務員にも客観的な仕事の処理をしてほしい。私も、前よりは韓国人に対して、ビザが厳しくなったと感じている。ベトナム、ネパール、東南アジアに対しては、かなり緩くなって、韓国に対しては厳しくなったと、みんな言っていましたから。これは政治的な関係が、こっちにも及んでいるんじゃないか。
- E さん：私が一番言いたいことは、今まで4、5年間、ここでヘイトスピーチの被害を受けた人たちが我慢をしているんですね。それが爆発したら怖いことになるんじゃないかという気がします。今、本当に我慢してね、倒産する直前まできている人たちが、我慢できなくなっている。こういうことの影響があつて、前と違って、韓国人のアルバイトを募集できなくなっているんですね。ワーキングのビザも、学生のビザも、色んなビザが厳しくなって、韓国から働きに来る人が少なくなっているから。2018年にも2020年にもオリンピックがあるんだから、そういうことで、お互いに一緒に、2002年のワールドカップの時みたいに、早く

立て直してもらおうことが、ポスターよりもいいんじゃないかという気がします。
それをお願いしたいですね。

F さん：この地域の韓国人の生活の基盤を脅かすような集会を根本的に規制しなければいけない。そういうことを望みますね。

2 川崎市川崎区

(1) 川崎区在住の40代女性, 50代女性

(ヘイトスピーチと聞いてイメージするもの)

人権を侵害するような汚い言葉だったり、罵声だったり。
一言で言えば「怖い」です。

(ヘイトスピーチを見聞きした経験)

新大久保でのデモがあった頃から、そういう団体のことは知っていました。京都朝鮮学校の事件にもとても関心があって、2人とも子供が朝鮮学校に通っているのです、次はこっちに来るんじゃないかと。

3年ぐらい前、日比谷で、朝鮮学校が高校無償化から除外されたことについての大規模な集会があって、それに2人とも参加しました。その後、新橋・銀座あたりをデモ行進したんですけど、その時に、その団体と右翼の街宣車に両側を挟まれて、聞くに堪えない言葉を投げかけられました。ここに住んでいるお母さん達もたくさん参加していて、中には小学校低学年ぐらいの子供と手をつないで参加していた人もいたんですけど、子供達も怯えて、びっくりしてしまって、「なぜ?なぜ?」っていう様子でした。こういうことは初めてではないので、分かってはいたんですけど、子供達に聞かせたくないような言葉だったので、心苦しいものがありました。その時の言葉というのは、色々と言っていたんですけど、人間じゃないみたいなくだりもあったし、「どうして生きているのか」、「日本から出て行け」、「その汚い血はなんだ」、「汚れたものは日本にいらぬ」みたいな、ものすごい言葉がたくさんで。高校無償化の是非に関するものじゃなくて、私たちの存在そのものを否定するような言葉で、「そんなに気に入らないなら、帰ればいいじゃん」とか「帰れよ」みたいな言葉もありました。何でこんなこと言われなきゃいけないのかなという泣きたくなるような思いをしました。

だから、私たちの高校無償化を実現しろという声なんか一つも世間様に届かず、この様子を見ている普通の日本の方々からすれば、まるで私たちが悪いことをして責められているような印象だったんじゃないでしょうか。

言っていたのは主婦やOLやネクタイを締めたサラリーマンなど、普通に見える人たちでした。昔から、私たちの親の世代が何か権利を主張してデモなどするたびに、そういう抗議はありましたけど、普通に見える人達が来るようになったのは近年からだと思います。

昨年5月末にも、在日が十条の学校に集まったことがあったんですが、その時も十条の駅前、本当に善良そうに見える普通の青年、かえって好青年に見えるような人が

何人もいて、「朝鮮人出て行け」、「お前たちはいらぬ」というプラカードを持ったり、拡声器を使ってしゃべったりしていたのが、すごくショックでした。普通の人たちが、朝鮮人、韓国人は汚いという教育を受けているのかと、とても恐ろしく感じたことを覚えていています。

北朝鮮の関係で報道があったりすると、子供も駅に行くときに、今日はヘイトスピーチ出てるかなと、怖がりますね。

川崎ではこれまでに12回デモがありました。現場に行っているわけではないので、直接目にすることはほとんどありません。ただ、朝鮮学校に関係する集会やちょっとした勉強会なんかがあるときは、なぜかそれを聞きつけて、何十人も人が会場の近くに待ち構えて街宣をします。そういうことは何度もありました。

今でも、日本語上手だねとか、いつ来たの、いつ帰るのって言われることがあって、在日だと言っても分かってもらえないこともある。私達の存在自体を知らない人がいっぱいいると思います。そういう人たちがヘイトスピーチを見たら、私達のことをどういう風に思うんだろうと考えてしまうこともあります。ますます住みにくくなるというか。

昔はチョゴリを着て堂々と歩けたし、指をさされるぐらいで、それでも普通でした。今は、子供がチョゴリを着ると言ったら止めると思います。普通に見える人がああいうスピーチをするわけだから、どこに紛れているか分からないですし、ああいう人たちは朝鮮人のことを何とも思っていないだろうから、何をされるかも分からないので。日本ではコリアンに対する先入観があまりにも悪くて、これはきっと無くならないだろうなと思うと、ただただ悲しいです。子供にも説明のしようがないです。

ネットでも、殺人事件なんかがあると、「どうせチョンだろ」、「あいつらは犯罪ばかりやりやがる」、そんなコメントばかりですよ。ネットを使っていると、嫌でも目に入ってきます。腹は立ちますが、正直、感覚が麻痺してしまって、慣れました。何も知らない人は、これを見て信じちゃうんだろうなと思います。

私だって、反対したいし、もっともっと声をあげたいけど、どこで何をされるか分からないので怖いし、子供に害が及ぶといけぬから、前に出ることはできません。

(ヘイトスピーチを見聞きした際の感情)

「あきらめ」ですかね。期待していないというか。長年にわたってなんで。差別の種類は変わってきたし、色んな意味で受け入れてくれる部分も増えてきて、それは在日だけで勝ち取った権利ではなくて、日本人で同調して下さる方々の動きもあったからこそだと思うのですが、他方で、こういうヘイトスピーチはあるので。

ヘイトスピーチを聞いて最初にくる感情は、怖いということ。怒りもわいてきますが、怒りをどこにぶつけていいか分からない状態です。私なんかは、それに真っ向から戦おうというのではなくて、あきらめの感情もあります。でも、子供たちの立場になった場合、こういうことをされぬために日本人になろうと思う子も多分増えてくると思います。私自身はコリアンとして生きていきたいが、これからの子供たちはそういう風には思わないのかなと。そういう風に考えると、この先どうなるのか不安です。あの人たちは、私達を根絶したいんですかね。

昔から色々と言われていましたけど、そこまで汚い言葉はありませんでした。「皆殺し」

と紙に書いてあったこともあって、ぞくっとしました。「私達がいったい何をしたの？」という感じでした。

(ヘイトスピーチの影響)

ヘイトスピーチで日本社会や日本人に対する見方が変わるということはないです。日本人に仲の良い人もいっぱいいるし、私達のことを支援してくれる人もたくさんいるので、こういうことをするのは一部の人だと思っています。

ニュースを見ていたら、韓国でも日本の政治家の人形を燃やしたりしているのがあって、あれも良くないし、韓国版のヘイトだと思っています。でも、韓国人がみんなそうだと思うのは、韓国人も多分嫌だと思う。日本の方もきっと同じだと思います。

(「ヘイトスピーチ、許さない。」のポスター、その他要望について)

このポスターは、存在だけで素晴らしいと思います。これがもし、在日コリアンが作ったものだったら、コリアンだけが一生懸命反対しているポスターだと思うじゃないですか。そうしたら人々の関心も少ないし。日本の人がやっていることに重みがある。理解のある人が、人権を擁護しなければならない、差別はだめだと、声を上げてくれる人がこの国にいっぱいいるという証になるじゃないですか。それが私たちに勇気をあたえるし、こそこそしないでこれからもコリアンとして生きていかなきゃと励まされます。

新聞やメディアにも、もっともっと、ヘイトスピーチはだめなんだということを発信して行ってほしいと思います。色んな人に、これはいけないことなんだって分かってもらえるようにした方がいいと思います。

大阪市のような条例が、川崎でもできればいいなとも思います。あの人達は、言論の自由をはき違えているじゃないですか。言っていることと、悪いことの区別をつけるという意味で、そういう条例が全国に広まっていけばいいなとも思いますね。

(2) 川崎区在住の70代女性Gさん、70代女性Hさん

(ヘイトスピーチを見聞きした経験)

2人とも1月31日に川崎で行われたデモに、抗議に行きました。ヘイトスピーチを見たのは、その時が初めてです。

(ヘイトスピーチを見聞きした際の感情等)

Gさん：ヘイトスピーチを聞いたときは、悔しい情けない気持ちになった。うっぷんを晴らす気にもなれなかった。ヘイトスピーチを知らない人や、子や孫には聞かせたくない。きっと、ハルモニ、ハラボジは何をしたの？何であんなことを言われるの？と思うだろうから。

私は日本で育っているから、日本の文化をよく知っています。子供の頃にはいじめられたこともありましたが、なにくそという気持ちで生きてきました。学校で先生に差別されたこともあるけど、他の大人たちはかわいがってくれたし、

お祭りに一緒に参加したりもしました。日本の文化も大好きだし、韓国の文化や風習も好きです。ヘイトスピーチがあると、その素晴らしい文化が台無しになってしまうじゃないですか。

公の場所で人を虫のように扱って、片付けろなどという発言は、暴力だと思う。そういうことを口にする人たちは、その人間性が問われるじゃないですか。

日本人に帰化した人が聞いたらなおつらいでしょう。そういう人も心は韓国人だと思うんですよ。そういう人たちがヘイトスピーチを聞いても表に出られない。どうしようもないでしょう。出て行け、死ね、殺せ、そういう汚い言葉を言ったり、虫けらのような扱いをしてはいけません。是非、法律で、暴力がいけないというのと同じように、言葉で傷つけることもいけないとしてほしい。警察はやめなさいとは言わないんですよ。どうして、ああいう人たちを保護しているのか、腑に落ちないんですよ。

警察の保護のもとに、高々と日の丸を掲げて、大声を出しながら行進している様子は耐え難いことですよ。

カウンターの方たちの頑張りをみれば有り難いですよね。日本人の方も多かったし、女の方も大勢いましたし、遠くからも来てくれました。

私たちも、日本では町会の会員になっていますし、老人会や婦人会の付き合いもしています。班長をやったこともあります。班の中では穏やかに、仲良くやっていますよ。私がキムチを作ったら分けてあげるし、おいしく食べてくれる。

日本の人たちは、面と向かってああいうヘイトスピーチは言わないだろうけど、多少は同じようなことを思ったり、陰で何か言ったりしているのではないかと感じることはあります。孫やひ孫から、お友達同士の会話を聞くと、あの人韓国人だからあまり遊ばない方がいいなんて、差別をする子もいるようなので。日本は実際にそういう社会だと思う。そうでないと子供はそんなこと言わない。教育の中でも、日本には色々な国の人が入って、お互いの文化を尊重していかなければならないということを教えていかないとだめですよ。

夫は日本人で、ヘイトスピーチの話は夫にしかしないですが、私の気持ちを伝えることはできないし、相談することもできない。とつてもつらいです。

Hさん：1月31日の、川崎のデモを初めてみた。みんなが聞こえるような大きな声で、傷つくようなことを言って、それに手を叩いて喜んでいる人がいました。何でこんなバカなことをやるんだろうと思いました。恥ずかしくないかなと思った。ああいうことは二度とやってほしくないです。見たくもないし、行きたくないし、他の人たちにも聞かせたくない。孫たちにも見せたくないし、口にしたいくない。悔しいし、情けないし、怒りもあります。

昔はそういうことはなかったでしょ。子供の頃は朝鮮人だろとは言われたけど、朝鮮人臭い、朝鮮人帰れとは言われなかった。差別なんて記憶にもないよ。だからそれを崩したくない。仲良くしてほしい。私たちは日本で骨を埋めるしかないんですよ。私たちは、何も日本の国に迷惑をかけていないし、税金も払っているし、一生懸命働いて、自分のお金で生活しているんです。

在日の1世は日本で一生懸命働いてきた。親が苦勞して、2世はその背中を見て育ってきたから、わがままも言わずに、おとなしく日本の教育も受けてきたのに。私たちの代でヘイトスピーチを終わらせたい。3世、4世はそういうことを知らずに、日本を大事にして、仲良く過ごしてほしい。孫たちに嫌な思いをさせたくない。1世、2世はヘイトスピーチを聞いてもなにくそと思うけど、3世、4世は、平和な時代に暮らしているから弱いよ。こういうのが続いて何回もあると、強く出られないと思う。そうなるとかわいそう。隠せるものなら隠したいと思うんじゃないですか。

(「ヘイトスピーチ、許さない。」のポスター、その他要望について)

Gさん：ポスターは見たことあるのですが、カウンターの方が作ったのかと思っていました。こういうのを作るんだったら、もう少し、無くなるような努力をしてください。

ポスターの表現は、許さないとかじゃなくて、やめなさいとか、人権侵害ですとか、もっと強い表現にできないんですか。

法的な差別がまだまだたくさんあるから、ヘイトスピーチが、力を増すんじゃないですか。政府の差別的行為がなければ、こういうこともなくなるんじゃないかな。

(3) 川崎区在住の40代女性

(ヘイトスピーチと聞いてイメージするもの)

人を、その属性を理由として、傷つけることを目的として、わざと武器として使っている言葉だと思うんですよ。異なる意見に耳を傾けるのは人として大切だと、私は子供に教えてきましたが、あれは異なる意見にカテゴライズできるものではないです。尊重に値する言葉ではないです。

(ヘイトスピーチを見聞きした経験)

ヘイトスピーチには何回も接したことがあります。デモの情報をキャッチしたらなるべく、時間をずらして避けるようにしてきたけど、偶発的に駅前で遭遇してしまったことが何度もあります。駅前で偶然遭遇したり、バスから見かけてしまったりした時に、下の息子に「あれ何？」と聞かれて答えられなかった。母親が、死ねとか、ゴキブリ・ウジ虫とか言われていることを、その子が知った時の悲しみとか絶望感を、どう支えていいか分からなかった。

昨年11月と今年1月に川崎市でデモがあった際には、カウンター行動に参加しました。11月のデモは家の近くに来るかもしれないという情報があった。下の子は大きな声とか苦手なので、デモが通らないであろう場所、大人がたくさんいるところに避難させました。

(ヘイトスピーチを見聞きした際の感情等)

デモを見て感じたことは、「悲しい」ですかね。何でこんなことを言われなきゃいけないんだというのもあるし、自分たちの主張があるのなら、自分たちの暮らしているところでやればいいのかと思う。

警察の対応にも違和感があった。過剰だなと思った。デモのスムーズな進行という役割を果たしている以上の力を感じました。まるで私たちの方が悪いことをしているように感じたんです。

上の息子は、11月のデモを目にして、絶対に許せないと言っていた。警察は、弱い者の味方、正義の味方だと思っていたのに、悪い事を言っている人たちを守っているように感じたようで、それにもびっくりしていましたね。息子は泣いていました。目の前で、母親のこと、友達のこと、大切な地域の人たちのことをひどく言われたし、排除されるべき対象として母親が語られているのを受け止めきれないですよね。1月のデモでは、空気が汚れるから、朝鮮人は空気を吸うなども言われました。

11月のデモを見た後、上の息子はツイッターを気にして見るようになりました。デモを支持したり、デモと同じ主張をしたり、デモの参加者らしき人のアカウントについて、この人が、今同じエレベーターに乗っていたらどうしようとか言っていた。

息子は、母親が在日コリアンであることを隠すわけでも、見せびらかすわけでもないけど、地域にも友達にも学校の先生にも大切にしてもらっていると感じている。彼が出会った圧倒的に多くの日本人や日本社会に対する考え方は変わっていません。ごく一部の変な人たちがやっていると思っている。でもひょっとしたら近所に住んでいる人が、そういう考えを持った人だったらどうしようか、今まで優しくった人が、自分のルーツを知ったとたん無視するようになったらどうしようかとか、色々な想像をしたと思う。

日常生活でも緊張を強いられています。ツイッターでも変なリプライが来ます。「朝鮮ヒトモドキの巣窟」、「桜本を焦土にしてくれ」とか。こういうのが来ると悔しくて、家で晩酌していても、いいお酒じゃなくなって、自分の大事な時間に、そのことが頭を離れなくなって、私の日常が侵されているんです。早く普通の日常に戻りたい。そのためにはヘイトスピーチを根絶するしかないんです。

(「ヘイトスピーチ、許さない。」のポスター、その他要望について)

ポスターは、とても優れていると思いますよ。川崎駅で初めてこれを見て、すごく嬉しかったんです。東京・横浜から来る人達が通るところに、こんなに大きいのがあったんだって。目立ちますよね。シンプルで、デザインも優れているし。「許さない」という言葉は心強いので、これよりメッセージが後退するような変化は望まないです。

国に法律を作ってほしいというのは、もちろんありますよ。

3 大阪市生野区

(1) 生野区在住の30代男性

(ヘイトスピーチと聞いてイメージするもの)

強者から弱者に対する差別や偏見を含む表現だと思います。偏見の中身もたくさんありますけど、事実に基づかないというのがとても大事だと思いますね。在日外国人が生活保護をたくさんもらっているとか、いわゆる在日特権があるというのも偏見そのものです。感情的な側面でいうと、社会的弱者が怖いと思うことというのがポイントだと思います。例えば、「殺す」、「皆殺し」、そういう言葉ですね。もう一点、これは昔ながらのものですが、「国へ帰れ」という言葉はとても傷つきますね。

(ヘイトスピーチを見聞きした経験)

直接デモを見たことはありません。地元でヘイトスピーチが行われたと聞いたのは、「鶴橋大虐殺」の発言があった鶴橋の街宣です。その頃、カウンターをやっている仲間たちがインターネットでデモ等の情報を集めていたので、情報自体は知っていたんですけど、カウンターに行くのは怖かった。動画や、カウンターで参加した仲間からの話で、ほぼ臨場感を持って様子を知ることはできました。デモでは汚い言葉がたくさんあるんですけど、一番、心に突き刺さるのは「鶴橋大虐殺」、「帰れ」、「殺すぞ」、「皆殺し」などですね。「国へ帰れ」という言葉も、昔から突き刺さる言葉です。私たちの存在そのものを否定するような言葉です。悪意を持ってない人でも、「(日本に) 何でおるん?」、「日本語うまいね」と言うことがあって、そういうのはヘイトスピーチではないけど、ちょっと傷つきます。

インターネットを使っても、ヘイトスピーチを見聞きする経験は多分にあります。ここ数年で増えてきたと思います。インターネットで配信されるニュースのコメント欄がひどすぎる。ネット上では、「帰れ」とか在日特権に対する批判が主な気がします。さすがに「殺すぞ」はないです。削除されるのでしょよね。よく見ているブログにも過激な表現のコメントが付いていたりして、否応なしに目に入ります。

(ヘイトスピーチを見聞きした際の感情)

「帰れ」、「殺すぞ」という発言を聞いた際は、「怖い」の一言です。社会で活動している中で、自分が中傷や批判の対象になるかもしれないと思うと怖いですね。もちろん、身体的に傷つけられるのではないかという怖さもあります。感情として次に来るのは、腹立たしいという感情です。怖いとひるんでしまった後に、何でこんな風を感じなければならぬんだという腹立たしさです。

(ヘイトスピーチの影響)

PTSD というのはないですが、(以前はなかったのですが) 知らない人と新たに出会うことによって嫌な思いをしたくないという気持ちが出てくるようになりました。それによって、今までよりも交友関係が若干狭くなったように思いますし、アクティブに活動することをちゅうちょしてしまう自分がいます。

(「ヘイトスピーチ、許さない。」のポスター、その他要望について)

ポスターについてはとっても心強いです。外国籍住民にとっては、法務省といえど入管なので、率直に言って意外でもあり、うれしくもありましたね。こういう形でも広ま

るというのは大事だと思います。

国への要望としては、すべての人が生きやすい世の中作りをしてほしい。弱者に目を向けた政策をすればするほどお金がかかることは承知しているけど、それを容認できる社会を作ってほしいと思いますね。

(2) 生野区在住の60代女性

(ヘイトスピーチと聞いてイメージするもの)

ヘイトスピーチで印象に残っているのは、「朝鮮人帰れ」、「生活保護の受給者はほとんど在日韓国朝鮮人だ」の2つです。

(ヘイトスピーチを見聞きした経験)

初めてデモの現場を見たのは2013年の2月です。自宅のベランダで洗濯物を干していたら、朝鮮人出て行けという声が風に乗って聞こえてきた。これは何だと思って自転車で5分くらい走らせたなら、50人を超える集団が疎開道路を行進していた。学生時代にも「朝鮮人出て行け」とか「帰れ」と言われたことはありましたが、公衆の前で堂々と何十人も集まってやっているのは驚きでした。着物を着た人とか学ランを着た人とかもいて、楽しんでいるような感じで、街宣車の中にも若い男性がいて、それにも驚きましたね。デモを直接見たのはこの1回だけです。

インターネットはたまに使いますが、ヘイトスピーチを自分から探すということはないですね。娘からこういうことが書かれていたと聞くことはあります。

(ヘイトスピーチを見聞きした際の感情)

デモを見たときには、まず憤怒を感じました。朝鮮人出て行けと言われても、出て行けないからいるのであって、ちゃんと歴史を勉強しなさいよと。実際、生活保護を受給している人もいますが、なぜそうなったかということを知っていますので。デモに参加していたのは若い人が多かったので、近代史をちゃんと勉強していればそういうことは言えないと思って、そういう怒りをずっと感じていました。

その後、恐怖がわいてきました。恐怖というのは、これが暴徒化しないかというのが怖かった。警察官もいるので、それ以上のことはできないだろうということも分かりましたが。

(ヘイトスピーチの影響)

精神面、心理面での影響というのではないですね。デモのことをふっと思い出すことはあるけど、恐怖で出てくるのではなくて、北朝鮮の問題などで街宣車が走っているのを見た時にふと思い出すことはあります。60年間在日していますから、差別や中傷に対する抗体ができていますから、悲しみはあまり感じませんが、憤怒を感じるのは変わらないですね。

デモの現場を見て、日本人や日本社会に対する見方が変わるということはないですね。

今まで日本で生きてきた中で、すでに差別はありましたから。ただ、こういう現象が起きること自体異常だと思います。周りの日本人は、傍観していました。何事もなかったように通り過ぎる人もいて、日本はこういう世の中なのだなと思いました。やはり日本人にとっては対岸の火事なんですね。悪気があるわけではなくて、歴史を学んでいないから、朝鮮民族を蔑視の対象とするんです。同情すると言われることはあるけど、同情ではなくて理解してほしいですね。

(「ヘイトスピーチ、許さない。」のポスター、その他要望について)

ポスターは駅のコンコースなどで、いつも目に入るけど、ポーズだけでやっているわと思っています。ポーズだけでなく中身を見せてほしい。どういう形かは分からないけど、国民に周知して、歯止めになるようなことをしてほしい。国が法律を作ってくれればいいですけど、そんなことできるはずないわと思っているので。大阪で条例ができたことも、もっと周知してほしいんですよね。我々の問題をもっと周知して、弱者を守る体制を作らなければならないんじゃないですか。後は、啓蒙ですかね。世界の国々は歴史を乗り越えているのに、日本は消極的で遅れていると思う。

(3) 生野区在住の40代女性

(ヘイトスピーチと聞いてイメージするもの)

怖いですね。差別用語とか、韓国や北朝鮮の悪口とか。従軍慰安婦の方への悪口も、朝鮮の女は嘘つきだという意味合いで使われるのでそれもヘイトスピーチに感じます。

(ヘイトスピーチを見聞きした経験)

最初に知ったのは、多分、2013年頃に「鶴橋大虐殺」と言っていた動画です。きっかけは忘れましたが、インターネットを使っていて、その動画に行き当たって、すごくびっくりしました。見なきゃ良かったと思いました。

ヘイトスピーチの動画は何回か見ているんですけど、まともに聞けないです。あまり思い出したくないので、記憶に残さないようにしています。

去年の夏前、近鉄の布施駅で朝鮮学校に通う子供の登下校の時間帯に街宣活動が行われて子供が嫌な思いをしているということで、カウンターのお手伝いに行きました。どういう言葉を言っていたかは覚えていないですけど、3、4名で街宣をしていました。抗議に来た人は40～50人で、警察も同程度いました。

インターネットでも、ちょっとした犯罪とか事件があると、「在日のせいだ」という情報が出てきます。主人は日本人ですが、主人からは、私が在日であることを家族に言わないようにとされています。主人の実家に行くと、コリアタウンのキムチは不衛生な状態で作っているとか、そういう情報をみんな信じています。

ツイッターも利用しています。在日で女性だと色々嫌なメッセージが来るらしいので、在日で女性であることが一見しても分からないようにしていますが、一回だけ、「朝鮮に帰れ」というリプライを受けたことがあります。

(ヘイトスピーチを見聞きした際の感情)

母親の実家からは在日であることを隠すようにと言われていて、それはおかしいと思っていました。若いときは、差別というのはどんどんなくなっていくものだという確信があったんですよ。年寄りには嫌なことを言うけど、若い世代になれば、そういうのは馬鹿らしい偏見だって分かるようになって信じていました。そうしたら、そういう動画を見つけて、ショックでした。よくなるどころか、そういうのが許されているということに。デモが許可されて、警察がデモしている人を守っているじゃないですか。

恐怖も感じました。それまで在日であると名乗ることにそこまで恐怖を覚えなかったんですが、今は本当に怖いんですよ。町中でも、そこらへんで話している中高年の人が韓国、北朝鮮、在日、慰安婦問題の話をしているとびくっとするんですね。別に私を見て在日と分かるわけではないんですけど。

社会の中で、ヘイトスピーチが許されている状態ですから、私が在日だといって殴られた場合に、在日だと名乗ったのが悪いと、そういう方向に流れていきそうな気がします。

(ヘイトスピーチの影響)

初対面の人に対しても、信じられないというか、用心する癖がついてしまいました。ヘイトスピーチを見る前はもっとのんきに考えていたのですが。日本人とか日本社会に対する見方も変わりましたね。差別という、社会で許された暴力に人は簡単に飛びつくんだなと思いました。

(「ヘイトスピーチ、許さない。」のポスター、その他要望について)

法務省のポスターは、あると心強いです。私が個人的に気になっているのは、日本にはたくさんのマイノリティがいるっていうことをちゃんと教育してほしいということ。日本人は、自分の周りには日本人だと思い込んでいるから。学校では、戦中戦後の在日の歴史ってというのが全部省略されちゃうんですよ。それでデマがすごく信じられやすい状況になっているんだと思います。大阪市の条例には、やっぱり罰則があってほしいなと思います。誰かを罰したいというわけではなくて、これは確実に人を傷つける、反社会的行為であるということ、罰則を設けることで明確にしてほしかったです。

(4) 生野区在住の40代男性

(ヘイトスピーチと聞いてイメージするもの)

どちらかと言えばネットで見ることが多いですが、「害国人」という看板が掲げられていたり、チョンコという言葉が平気で言われたり、プラカードに書かれていたのは結構、衝撃的でした。偏見だけでなく、蔑称が平然と言われていることがすごく印象にあります。

(ヘイトスピーチを見聞きした経験)

初めて、ヘイトスピーチを街頭で直接見たのは2年前で、その後に数回は見ました。カウンター側にいたので、何を言っているかはほとんど聞こえなかったです。実際に言葉を聞くのはネットで見るときが多いです。チョンとかチョンコというのを連呼していたのは聞こえました。

インターネット上でも、韓国とか朝鮮で検索すると、いやがおうでも目にする機会が増えているのが現状です。昔は学者の論文とか、我々がアクセスしたい情報が出てくるが多かったんですけど。

小学校では、北朝鮮のミサイルのニュースが出たときには、本名を名乗っている子供が、「韓国人帰れ」とか、「お前が撃ったんか」と言われたという話はちよくちよく出てくるようです。

(ヘイトスピーチを見聞きした際の感情)

知り合いの在日とヘイトスピーチのことを話題にすると、みんな腹が立つとは言いません。ただ、どれくらい傷ついているかという話は出にくい。普段は日本名を名乗って、在日であることを明かしていない人が多いので、何か抗議行動するというよりは、傷ついて帰るだけの人が大半だと思いますね。私自身は、変なやつらだと冷静に見ていると思う。何もできない歯がゆさは大きいです。

私としては、ネットで動画を見たときに、画面上を、チョンコ、殺せといったメッセージがたくさん流れていて、そっちの方が怖かったですね。実際はこれに賛同する人間は少ないと思うし、同じ人間が何度もやっているかもしれないですけど、たくさん人間が賛同しているように見えて、なぜあの映像に共感する人がこんなにいるのかという怖さがありましたね。

(ヘイトスピーチの影響)

子供たちに及ぼす影響は大きいんじゃないですか。民族名で生きている子供はほとんどいない。自分の存在をどんどん隠さないといけないようになってしまっている。その辺りは何とかできないのかなということを感じます。子供達の中にはそれまで本名で学校に通っていたのに、就職をするときに日本名に変えた子もいました。それはヘイトスピーチの影響だけじゃなくて、厳しい社会の現実を前にしてそうなったということですけど。

私は、生野区に引っ越してきて感じたのは安心感なんですね。周りがみんな在日なので、在日であることに緊張感がない、在日であることがばれてもいいんですね。これだけ安心しておれる場を彼らに崩されるのはとても恐ろしいです。

(「ヘイトスピーチ、許さない。」のポスター、その他要望について)

ポスターについては、ヘイトスピーチは犯罪であると呼びかけるべきだと思います。今のままでは何を許さないのかよく分からない。

法律で罰則を設けることは必要だと思います。悪いことをしたら罰せられるというのは社会のルールであり、ヘイトスピーチは、罰せられるに値する行為だと思うのですが、

法的に悪いことになっていないのが現状なので。

法務局の人達はヘイトスピーチを見たことがあるのかなと思います。一昔前は差別落書きがあると、現場で写真をとって保全したりしていたのですが、ヘイトスピーチの現場ではそういう光景を見たことがない。ちゃんとヘイトスピーチを差別事象として認識して、記録して、日本社会に残していくということがあるべき形だと思います。そうしないと、これが問題だという認識が広がりにくい。

(5) 生野区在住の40代男性

(ヘイトスピーチと聞いてイメージするもの)

チョンコという言葉もそうですし、朝鮮人という言葉も、彼らが口にするときは、差別の気持ちで満たされているので、ヘイトスピーチだと思う。自分の属性を理由としておとしめるような言葉を言われると、反論ができなくなるんですが、そうした抑圧的なものがヘイトスピーチだと思います。出て行けという言葉も、僕らは2世、3世になると韓国語も朝鮮語も話せないですし、出て行く場所がないわけで、出て行けと言われても、どうしたらいいんだということになります。それは言い換えると、我々の生存を脅かす言葉であり、ヘイトスピーチだと思います。

(ヘイトスピーチを見聞きした経験)

2013年2月の鶴橋で街宣活動を見たのが最初です。あいつらは拡声器を使っていたのと、警察が抑圧的で、我々が声を上げようとすると制止されて、こっちが捕まるのではないかと思うほど異様な雰囲気でした。その年の3月末にも抗議活動に行きましたし、その後も、時間の許す限り行っていました。誰かが声を上げないと、街中に汚い言葉が響くので、行かざるを得なかったです。回数は数えたことはないですけど、関西を中心に多分200回ぐらい行っています。

そこでの言動というのは、枚挙にいとまがありません。歴史的な話をネタにして、嘘つき朝鮮人とか慰安婦はねつ造であるとか、そういう派生的なヘイトスピーチもありましたし、朝鮮人の女はレイプしていいというプラカードを持っている人もいましたし、太極旗にゴキブリの絵を描いたものを持って歩いている人もいました。出て行け、朝鮮帰れ、ソウルを火の海にするぞ、朝鮮人を福島海に叩き込め、原発労働者として朝鮮人を連れて行けなどというものもありました。

最初は死ね殺せという直接的な汚い言葉がありましたが、カウンターから突っ込みを入れるようになって、途中からだいぶ減ってきたように思います。

インターネットでは、SNSが一番多い。僕はプロフィールに日本国籍の在日と書いているんですけど、そしたらいきなり朝鮮人を殺したいと書き込まれたりとか、ちょっと政治的・歴史的なことを書くと、とたんに色々な差別的な言葉を投げかけられたりします。ツイッターでは特に多いですね。

(ヘイトスピーチを見聞きした際の感情)

街宣活動に通行人が賛意を示すことがあるんですよ。話を聞いて拍手をしたり，通行人がカウンターをする女性にからんできて，なんであいつらの言っていることがあかんねんと言ったりする。ああいう街宣にシンパシーを感じている人がいるというのはうれしいです。

朝鮮人の女はレイプしていいんだという言葉が言われたときに，母や姉のことを思うと，それを許している日本社会に重たい気持ちを感じるんですよ。チョンコとか不逞鮮人とか，そういうのを聞いていると自分のことを言われていると感じて，重たい気持ちが続く。悲しいとかつらいというよりも，憂鬱で何もしたくない気持ちになる。

(ヘイトスピーチの影響)

ヘイトスピーチを浴びると，何週間も苦しい気持ちを抱えながら仕事をするようになります。解消できないダメージがいつまでも続くんですよ。仕事をしている時なんかは，ふいに涙がこみ上げてきたり，夜中に目が覚めて眠れなくなったりすることもあります。ニュースを聞いて思い出してということもありますし。私は大人ですからそれでも解消できますけど，子供だったり，老人だったりすると，解消しようがない。日本の社会に対する不信感が意識の中に根付いてしまうと，これから先，生きていくのが大変だと思います。

(「ヘイトスピーチ，許さない。」のポスター，その他要望について)

法務省のポスターは，あいつらも逆に利用するので，基準を書いてほしいんですよ。マジョリティからマイノリティに攻撃するからだめなんだと。ヘイトスピーチというのは，ヘイトクライムの前段階だと思うので，表現としても，もったきつものにしなければいけないと思います。

大阪では条例ができましたが，国の方でも実態を把握して，法律を作ってほしいです。罰則をつけて，そういう人が出てきにくくするようにしてほしい。

(6) 生野区在住の40代男性

(ヘイトスピーチと聞いてイメージするもの)

例えば，彼らは何年間も，ほぼ毎週末，路上で公然と，良い朝鮮人も悪い朝鮮人も殺せとか，朝鮮人殺してしまえとか，アウシュビッツにたたき込めとか，朝鮮人の女性は全員レイプしてしまえとか売春婦だとか，四つ足で歩けとか，そういうことを言うんです。集住地区だと，幼い子供がそれを見て，怯えて体が硬直するという，そういう状態が現在も続いていて，それが問題だと感じています。

(ヘイトスピーチを見聞きした経験)

2013年からは抗議活動に参加するようになり，カウンター活動で200回ぐらいはデモ等を見えています。京都，神戸，大阪を中心に，時には名古屋や東京にも行きます。

デモを最初に直接見たのは，2013年2月24日の日韓断交デモ及び鶴橋大虐殺街

宣です。デモの間は、ずっと、在日韓国朝鮮人に対する殺害コール、叩き出せ、殺せ、レイプしてしまえ、毒を飲め、首つれ、ウジ虫、ゴキブリ、寄生虫、言い出したらきりがありません。当時はカウンターも少なかったし、社会的にもそれほど問題視されていなかったのだから、今よりも世間を気にすることがなくて、ヘイトの言葉がひどかった。

その後、JRの高架下で街宣を行い、鶴橋大虐殺せよとか、寄生虫だとか、殺してしまえとか、日本から出て行けということを延々と叫んでいた。ベビーカーを押している若い夫婦の父親の方がそれに抗議をしたら、十数人の男が取り囲んで、拡声器で、「朝鮮人の親から生まれただけあってぶさいくなガキやないか、こんなガキ早くぶち殺してしまえ」などと叫んだり、逃げたお母さんを「殺してやるからこっちこい」と追いかけてりしている。警察の目の前でそういうことが行われているのに誰も止めなかったんですよ。

彼らは、警察の目の前でおばさんを投げ飛ばしたり、足をけがさせたりしたこともあるし、カウンターに対しても暴力を振るったりもするのに、警察はとりあってくれない。関西では、それがなかなか改まらず、今も続いている。彼らは警察に守られながら公然と差別をしています。警察が荷担しているも同様です。

2013年は、相手の数が平均100名ぐらいで、こちら側がその5分の1ぐらいでしたが、それが今では逆転していて、抗議側が増えて、相手方が減りました。相手は、2013年、2014年までは必ずネットで日時を告知していたんですけど、カウンター側の抗議が大きくなったもので、告知をせずにいきなり街でヘイトスピーチをやっけて帰って行くというスタイルを取り始めました。カウンターがいるときは、言葉は非常に気にしてやっけているんですけど、カウンターがない時は、激しい蔑称を繁華街で何時間も叫んでいるというのが現状です。

(ヘイトスピーチを見聞きした際の感情等)

色んな光景を何百と見て、何千何万というヘイトを浴びてきたので、今でも、殺害コールの光景が、日常生活でフラッシュバックしたり、夢に見たりもします。嘔吐は何十回もあります。家に帰った時や、カウンターの最中にも吐くことがあります。2013年の7か月間ぐらいは、睡眠剤、安定剤が欠かせない状況になりながらカウンター活動をやっていました。行くたびにゴキブリだとか、殺すぞとか、お前の母親を八つ裂きにしてガス室に放り込むなんて言われて、異常ですよ。先進国の路上でそういうことが毎週末、当たり前のように行われているというのは異常ですよ。これを鎮圧する仕組みを社会が持ってないから、僕らがやらざるを得ない状況なんです。

(「ヘイトスピーチ、許さない。」のポスター、その他要望について)

法務省の方にも、ヘイトスピーチの現場に調査に来ていただきたい。目の前で何がおきているのか実態を把握してほしい。法務局に被害に関する問い合わせをしても、現状これ以上何もできないと言われて、話にならなかったです。ちゃんとした声を保全して、社会に可視化してほしいし、改善のための実行を積み重ねてほしい。

法律はあった方がいいです。具体的な罰則が必要だと思います。罰金であってもいいですが、そういうことを繰り返すと、日常生活にも支障を来すということを体で覚えさ

せる必要があります。ペナルティがないとレイシストはやめないですよ。ヘイトスピーチがヘイトクライム、ジェノサイドにエスカレートしていくことは歴史が証明しています。ここで歯止めをかけずに放置していると、いつかまた同じ様なジェノサイドへの繰り返しとなる筈です。

(7) 天王寺区在住の30代男性

(ヘイトスピーチを見聞きした経験)

3年前の2月24日に鶴橋で街宣があるということを知り、抗議活動に参加しました。現場に行ったのはその時が初めてでした。デモの参加者は100人以上で、抗議する側は30～40人ぐらいか、もっと少なかったかもしれません。その時、特に印象に残っている発言というのは、殺せ、ゴミブリ、チョンコ、死ね、ウンコ食うとけなどで、ひどいことばかり言っていました。

それまでも街宣車が竹島から出て行けとか言っているのはあったけど、それは政治的な主張であると自分の中で折り合いをつけることはできました。でも、彼らの主張というのは根拠もなく、ただ罵声を浴びせるというだけで、ああいうのを生で聞いたのは初めてでした。動画では見たことはありましたが、違う世界のものかなと思っていましたし。

その後、3年間で、回数が分からないくらい抗議活動に参加しました。毎週末、関西のどこかでやっていたので。

最初の頃に比べれば、最近は殺せとかそういう汚い言葉はなくなってきました。でも、彼らは相変わらずひどい言葉を言っています。死ね、殺せと言わなきゃヘイトスピーチではないと主張しますが、やっていることは在日に対する差別や差別の扇動に変わりないです。今の方が正直怖いです。在日はこういうことをやっているから、そういう人達にはちゃんと祖国へ帰っていただいた方がいいとか、在日が言っていることは全て嘘だとかデマだとか、そういうことを言って街の人を扇動しています。

ネットでも、ヤフーニュースのコメント欄なんかはそんなのばかりです。私はツイッターをやっているんですが、アカウントを見れば在日だと分かるので、変なメッセージが飛んできます。でも、僕は少ない方だと思います。彼らは在日でも女性とか子供とか自分より弱い立場の人を攻撃するので。

(ヘイトスピーチを見聞きした際の感情)

若いときは、対個人同士のケンカの中で、「殺すぞ」などの言い合いはありましたが、それを公然と道路の真ん中でトラメガを持ってマイノリティに向けて叫んでいるということがショックでしたね。しかも、彼らの僕たちを見る目が、人間を見る目ではなくて怖かった。これを公然とやらせている社会とか警察にもショックを受けましたね。あれだけの人数で、あんな大きな声でずっと罵声を浴びせるというのは、やっぱり怖くて、ずっと緊張していました。鼓動がすごく速くなって、息がしにくくなって、体が固まるような状況でした。プラカードを上げると、警察からおろせと言われて、デモ隊からも

罵声が飛んできてすさまじかったです。デモ隊がこっちに突っ込もうとしてきたときは、警察は止めない。だけど、こっちが突っ込もうとすると警察ががちがちに止めるんですよ。警察は、彼らを守っているような状況でした。

デモ・街宣は全部で2時間ぐらいですが、ずっとヘイトを浴び続けていると、自分はこの国におったらあかんちゃうのかなと考えてしまうくらいでした。その日の帰りは、ショックと怒りと悲しみで涙が止まらなかったです。また、これが許されている社会にすごい絶望を感じました。

(ヘイトスピーチの影響)

最初に鶴橋でデモを見たのが一番ショックで、今でも、鶴橋でデモをやるって聞くと、ドキドキします。呼吸があらくなりますし、思い出したくないけど、思い出してしまう。抗議活動に参加した後も、胃が痛くなったりしますね。ずっと続くわけではないけど、抗議に行った後とかは眠れなくなったり、精神的に不安定になります。また、日常でも常にそのことを考えてしまって、感情をうまくコントロールできないこともあります。

(「ヘイトスピーチ、許さない。」のポスター、その他要望について)

法務省のポスターは、どんどん貼ってください。日本の社会で、国の法務省がこういうことをやっているというのはいいと思います。駅とかでよく見かけますが、もっと目にする機会があった方がよいです。ただ、ヘイトスピーチって何かという説明があった方が分かりやすいと思うんです。パッと見ただけでは、あのポスターが何なのか分からないので。

大阪でも条例ができましたけど、国でも規制できるような法整備をやってもらった方がよいと思います。できれば、差別をした人にはある程度社会的な制裁があった方がよいのかなと思います。少なくとも名前の公表ぐらいはやった方がよいと思います。

(8) 生野区在住の20代男性

(ヘイトスピーチと聞いてイメージするもの)

出て行け、殺せという表現はもちろんですが、在日コリアンに対して憎悪を煽る表現というのは全てヘイトスピーチに当たると思います。朝鮮人という言葉自体に侮蔑の感情が混じっていればヘイトスピーチに当たると思います。

(ヘイトスピーチを見聞きした経験)

ヘイトスピーチを知ったのは2010年代に入ってからです。実際にデモをやっていたのを知り合いがたまたまビデオに収めていて、それを見た記憶があります。たまたまデモに居合わせたこともありますし、京都朝鮮学校の事件の後、京都にある在日コリアンの介護施設が襲撃されるという話があって、施設を守るために応援で行ったこともあります。

これまでに、大きなデモを見たのは全部で5回ぐらいです。それ以外に、例えば誰か

の講演会に2, 3人がやって来て街宣をするというのも含めると, 10回は超えていると思います。

ネットについては, そういうものを見るのがいやなので, 意図的に, 極力見ないようにしています。

(ヘイトスピーチを見聞きした際の感情)

最初にデモを見たときは, 大々的に差別を煽っていて, その意図がよく分からなかったもので, それがちょっと衝撃でした。警察の許可はとっているんでしょうけど, なぜ許可をしたのかも疑問でした。

正直, 悲しいという思いもありましたし, デモをしている人達に対しても, なんてこういう人生を送っているのかなと思いました。ここまでの行動を起こすというのは, その裏にどういう怒りがあるのかなというのも考えたりしました。

警察については, デモが安全に行われるための警備という意味ではそうなのかなとは思いますが, 罵詈雑言に対して何の対策もない。例えば, 拡声器の使い方を制限するとか, そういうことすらないし, プラカードをかかげるのも制止しようとしません。警察の指示に従ってさえいけば, あとは好きにやっていいと言っているようなものでした。

(ヘイトスピーチの影響)

私も鶴橋近辺に住んでいますが, 休日の昼に家にいたり, 鶴橋駅近辺にいと, 声が聞こえてくるんですね。そうすると, 極力その場を離れたくなるし, 家からも外出しにくくなる。私の場合はそんなに深刻ではないですけど, 一歩も外に出られない人も絶対いると思う。鶴橋近辺で働いている知り合いからも, そういうことがあると業務に支障が出るという話を聞いています。これを放っておくことは, 日本社会にとっても絶対にプラスにはならないと思いますので, それをもう少し真剣に考えるべきじゃないかとは思いますがね。

(「ヘイトスピーチ, 許さない。」のポスター, その他要望について)

駅などでよく見かけます。文字だけなので, どれだけメッセージ性があるのかというのはありますが, 全体として特に不満はないです。

国や自治体への要望としては, ヘイトスピーチに関する連絡網を作るというか, 何月何日にどこでやるのか事前に分かるのであれば, 率先して阻止すべきじゃないかということです。最近ではゲリラで街宣をやることも多いと聞いているので, 常に監視の網をはるとか, そういうことをしっかりやってほしいです。

(9) 天王寺区在住の20代女性

(ヘイトスピーチと聞いてイメージするもの)

マイノリティに向けて憎悪を煽る表現ですかね。印象に残っているのは, 2013年

の鶴橋大虐殺というやつです。私もたまたまその場にいたんですけど、衝撃で、今でもありありと思い出します。他には、動画で見たのか、ミナミで見たのか記憶は定かでないんですけど、いい朝鮮人も悪い朝鮮人も殺せだとか、朝鮮人の女はみんなレイプしていいというプラカードとかですかね。

(ヘイトスピーチを見聞きした経験)

ヘイトスピーチと認識したのは、2013年に鶴橋でデモを見た頃からですけど、私は小学生のとき民族学校に通っていて、電車の中で友達と韓国語の教科書を読んだりしていたときに、知らないおじさんから「朝鮮人、朝鮮語使うな」と言われたことがあって、今思えばあれもヘイトスピーチだよなと思います。

外出先でたまたま遭遇したことは4、5回あると思います。カウンターとして参加した時も含めたら8、9回くらいあります。

ツイッターは、昔、していたけど、「チョンコ」とか「帰れ」とかそういうメッセージが来るからやめました。フェイスブックは知っている友人としかつながっていないですけど、大学の時の友人や職場の人が、韓国・朝鮮に対する差別を煽る、明らかにデマと思うような記事をシェアしているのを目にすることがあります。ヤフーニュースは、特に北朝鮮とか韓国のニュースのコメント欄にヘイトのコメントが目立ちます。そういう情報は、見たいと思わなくても目に入ってきます。

(ヘイトスピーチを見聞きした際の感情)

いつも思うんですけど、警察が守っている感じがすごくある。朝鮮人の女はみんなレイプしていいとか、そういうひどい、聞くに堪えないことを言っているのに、警察が許可出して、守っている、そのことも怖いし、たまたま居合わせた人が野次馬みたいに見ていたり、無関心で通り過ぎて行ったり、そのことも怖かったです。この人達、何も思わないのかなと。これから先、私に何かあったとしても、こんなデモを守っている警察が、私のこと守ってくれるのかなと不安になる。これからも日本で生きていくことへの不安もすごくありますね。

(ヘイトスピーチの影響)

ヘイトスピーチしている人って見た目は普通なので、職場でも、上司や同僚が心の中でどう思っているんだろうと疑心暗鬼になってしまいます。最近は週末にミナミとか梅田でヘイトがあると聞くと、用事があっても行くのをやめようと思います。カウンターとして行くのは、生野とか布施とかなじみのある街でデモがあるときで、しょうがなく行っています。

アイデンティティーが揺るがされる気持ちもします。あの人達の言っていることはめちゃめちゃだし、何の根拠もないし、あんなのにまどわされたくはないけど。大人の私ですらそうなので、在日コリアンの子供らはどうやって自分のアイデンティティーを形成していくんだろうかと心配になったりもします。

日本社会や日本人に対しては、正直、なんでこんなひどいことが自分たちの国で起きているのに、みんな知らんぷりで通り過ぎているんやろと思います。日本の社会で起き

ている日本人の問題なのに、レイシストと在日の戦いと思っていて、自分たちの問題と思っていない人がすごく多い。

(「ヘイトスピーチ、許さない。」のポスター、その他要望について)

私はこういうことに関心があるので、ポスターは目に入るけど、目に入っていない人には全然入っていないと思う。許さないっていうのは悪くないけど、ちょっとぼんやりしている気がします。犯罪ですとか書いてほしいけど、罰する法律がないから。文章もいいと思うけど、優等生的な感じがするとか。このポスターができてからも、状況は何も変わっていないから、形だけポスターを作りましたと、そういう風に思っています。

禁止する法律は作ってほしいです。カウンター之力には限界があるし、最初から行われないように、やったら法律で罰せられると決めてほしい。

日本の大学に行って驚いたのは、日本の子が本当に現代史を知らないこと。そもそも在日の存在を知らないし、私に「めっちゃ日本語うまいな」「いつ日本に来たん?」とか、それは今もしょっちゅう言われるし、説明してもよく分かっていない反応をされる。教育をするのは必須やと思っていたけど、今の日本では無理かなと思っていて、あきらめの気持ちが強いです。

第3 調査結果（2）地域の日本人住民

1 新宿区

(1) 大久保通りで店舗を経営する60代男性

(ヘイトスピーチを見聞きした経験)

ヘイトスピーチのデモを最初に直接見たのは3年前か4年前か、竹島の問題があったときだよ。あの頃は、週1回とか2週間に1回とか集中的にありました。でも、そんなに長い期間ではなかった。最近は1年以上ないと思う。去年に来たのも大久保通りには来ていない。役所の方でもなるべく大久保通りに来ないようにしてくれているんじゃないかと思いますよ。あと、京都の裁判の影響もあるんでしょうね。

(ヘイトスピーチを見聞きした際の感情)

デモが来たときは店の中からも嫌でも見えるよ。スピーカーでも大きい声を出している。普通に見える女性が子供を連れて、汚い言葉を投げかけていたのは異様でした。どういふ言葉か具体的には思い出せないけど、普通の人と言わないような言葉でした。「チャンコロは自分の国に帰れ」「何しに来てんだ」とか。聞いたときは本当に不愉快でした。普通、面と向かっては絶対相手に言わないようなことを、あんなところでマイクを使ってでかい声で言っているのは聞くに堪えなかった。韓国の店の人は、あれだと恐怖を覚えるんじゃないかという気がしましたね。

(ヘイトスピーチの影響)

デモの参加人数は、当初は100人もいなかったけど、メディアで騒がれるようになって100人ぐらいになって、途中からデモに反対する人も来るようになったので、とんでもない人数になった。報道陣の数もすごかったし、警察もいたし、あの頃は観光客も多かったので、本当に歩けない状態になって大混乱になった。

デモの時間は限られていたので、他の店でも、営業面で深刻な被害はなかったと思う。デモ隊は、観光客に対しても、なんでこんなところで時間を潰しているんだと、汚い言葉を投げかけていたから、観光客に悪い印象を与えたと思う。この街に対する好感度は下がったんじゃないか。

これくらいのことで店を閉めるとか、大久保から出て行くということはありませんよ。みんな必死ですよ。お金注ぎ込んで店をやっているわけですから、撤退したら大損ですから。

観光客の数が一時減ったのは、日韓関係の悪化も原因ではないかと思うが、去年あたりから少しずつ増えてきている。

(「ヘイトスピーチ、許さない。」のポスター、その他要望について)

ポスターはちょっと覚えてないな。

ただ、正直、もうおさまっているんで、静かにしておいてほしいという気持ちがあります。あそこまでひどかったら、デモ自体を止めることができれば一番だとは思いますがけどね。

(2) 大久保通りで店舗を経営する60代男性

(ヘイトスピーチを見聞きした経験)

デモを最初に見たのは2年前の6月だと思います。その前に、職安通りに1回デモ隊が来て、韓国のお店の人に罵詈雑言を言ったりとか、手をだしたりしたという噂は聞いていました。初めて見た時は、普通のデモ隊とはまったく異なる言葉を言っていたので衝撃だった。何を言っていたかははっきりと覚えていないけど、国に帰れというのは軽い方で、殺せとかかなり刺激的な言葉があったように感じています。アジアの他の国の方がお子さんを連れて店に入ろうとしていた時にデモが来て、怯えているお母さんの顔、子供を守ろうとする姿勢というのを強烈に覚えている。

その時のデモ隊は、何百人もの大勢ではないですけど、それを規制するための警察の数が多いですし、報道の方も多かった。その後、ヘイトスピーチデモに反対する方たちのグループも多くなりまして、騒然とした感じになりました。デモそのものの規模は大きくなくても、実際に集まった人の数が非常に多くなったので驚きました。

デモに参加している人たちは、普通に見える人たちで、乳母車をひいたお母さんも中に入っていて、そういう言葉を叫んでいたことにも、衝撃を受けました。

大久保通りでのデモ行進というのはその年以降、実はないんです。去年の暮れに1回ありましたが、それも大久保通りは通っていません。メディアとしては、視聴者に分かりやすいということで、大久保のデモを取り上げているんでしょうけど。

(ヘイトスピーチを見聞きした際の感情)

言葉を聞いたときは、びっくりしましたし、どうしてそういう言葉が言えるんだろうと思いました。私と同世代の人もいたし、若い人たちもいた。自分と同じ教育を受けている人からああいう言葉が出てくるということが信じられなかったですね。主張したいことがあるのはいいことだと思うし、デモすることも権利としてあるけれど、ああいう言葉を使うのは信じられなかったですね。

デモに参加している人にも、デモに反対している人にも、地元の人はいないんですね。大久保という舞台の上で、大久保じゃない人達が色んなことを発信している。地元の人には置き去りで、ひどい目にあっているのは地元の外国の方たちで、そういう風な目で見えていましたね。

地元の人間としては、そういうデモは無くなってほしいし、早くみんなが普通に生活をしている街に戻ってほしいというのが一番の願いでした。

(ヘイトスピーチの影響)

多分、日本のお店で被害はなかったと思います。ただ、韓国のお店でガラスを割られたという話は耳にしました。

売上や客足への影響は、あるのかもしれないというぐらいですね。韓流ブームで観光客が増え、2011年の夏がピークでしたが、異常な盛り上がりだったので長く続く

ものではなく、だんだん客足が落ちていた時期に、ヘイトスピーチのデモや、日韓関係の悪化が重なりました。大久保通りにデモ隊が来たのは10回に満たない回数ですし、メディアが取り上げたような大きな混乱があったとは地元では見ていないので、客足が落ちたことの遠因にはなっているかもしれないけど大きな要素になったとは思っていません。今でも観光でいらっしゃる方は決して少なくないですし、世の中で言われているほど極端に観光客が減ったということはありません。

ヘイトスピーチのデモが原因で、地域の雰囲気が変わったとは感じませんね。これはお互い様ですけど、日本人にも外国人にも、良い人、悪い人がいて、この地域では、外国人に迷惑を被ったという人が多いことは事実なので、もしかしたらヘイトスピーチで溜飲を下げた人がいたかもしれないけど、ああいう言葉を使うのは絶対におかしいとみんな思っているんじゃないですかね。

(「ヘイトスピーチ、許さない。」のポスター、その他要望について)

大久保通りでも貼っているところがありますね。自分が店に貼るかといったら、貼りません。例えば、我々が街をあげてヘイトスピーチに反対という旗を揚げれば、メディアはここぞとばかりに取り上げるだろうし、逆にヘイトスピーチをする側は、大久保は日本の敵だと言うだろうし、それで被害を受けるのは地元の間人です。そのことについて誰も責任をとってくれないんですよね。ヘイトスピーチに反対だと思っけていますけど、それを声高に叫ぶことが地域にとっていいことかという、そうではないんじゃないかと思っけてしまいます。

2 大阪市生野区

生野区在住の60代男性, 70代男性, 60代男性, 60代女性

(ヘイトスピーチを見聞きした経験, 感情)

2013年2月に行われた鶴橋の街宣・デモでは、皆殺すとか、そういう言葉がばんばん出てくる。地域の人たちで、一昨年にはヘイトスピーチに関する勉強会を行い、ここでも動画を見ました。

初めて聞いたときは、びっくりしたというか、人が人に言う言葉ではないとショックを受けた。マイクを使った言葉の暴力ですよ。どうしたもんかなというのを考えるようになりました。

在日コリアンの方々は、生野区に戦前から住み始めていて、日本の社会に溶け込んでいる。地域の役員にも在日コリアンの方がなっています。確かに戦後、我々の親の世代では民族差別がはびこっていて、蔑称をばんばん使っていた。最近では、そういったことはめっきり少なくなってきたと思う。子供同士の交流もあるし、学校でも民族学級に日本人の子供も参加してやっている。我々の子や孫の世代に民族差別が少なくなっているのは、我々の世代がそういうことを言わなくなってきたからだと思う。地域の人権団体も活発に活動している。韓流ブームもあって、コリアンタウンには、休日にたくさん日本人が来ます。

ヘイトスピーチみたいなことをやられたら、生野区の間が戦後、一生懸命作り上げてきたものが脅かされることに腹が立ちます。ヘイトスピーチをやる人が、この辺りに住んでいる人間かという、一切関係ない人たちですよ。

2013年2月の街宣、デモの際、警察はデモ隊を守って、激怒する韓国・朝鮮の人たちを止めるんですよ。個人攻撃をしていないから、表現の自由だというけど、そんなあほなことはないやろと思います。こんな表現の自由がまかりとおっていいはずがない。我々日本人が恥ずかしいですよ。人間性が疑われる。日本がこういうのを平気で許していると思われないかな。

正確な情報を伝えることも大事だと思います。未だに、在日コリアンは税金払っていないという認識の人間がいる。当然のことながら税金、年金、全部払っているし、在日の特権なんてないので、そういうのがはっきり分かると、ヘイトスピーチに賛同する人間は少なくなるんじゃないか。

(ヘイトスピーチの影響)

各町会長のところにはヘイトスピーチに関する相談もきているようですが、何も危害を加えられていないとなると、どうしようもない。警察にも要望を出したりはしている。最近では生野区内で立ち止まったの街宣というのはないと思うが、街宣車が生野区内を通過していくことはある。

お客さんが減ったり、コリアンタウンに行く人が減ったりしたということはないが、在日外国人の方は、不安を抱かれています。

(「ヘイトスピーチ、許さない。」のポスター、その他要望について)

ポスターは町会の掲示板に貼ったりしています。町会もこういうことを考えているんだと、示すことができますね。デザインはこのままでいいと思います。下手な絵を描かなくていい。いらんことを書くよりもこのままでいいと思います。目に入りますしね。他の地域でこれでいいのかは分かりませんが、四国でこれを貼っても、ヘイトスピーチが何か分かっている人がそもそもいるかどうか。

罰則をしっかり設けることが抑制につながるのではないかと。区民市民にとってもそれが一番有り難いのではないかと思います。大阪市で条例ができたのは良かったが、罰則規定はないので、これは、まだまだこれからの話でしょう。法律がきちりできて、それを機会に在日と日本人との間での相互理解が進むことが一番だと思いますよ。本当は法律なしで相互理解が進むのが一番ですけど。